

高校生の SNS の利用に関する調査報告書〔概要〕 —日本・米国・中国・韓国の比較—

このたび、国立青少年教育振興機構では、令和5年9月～令和6年1月に高校生を対象として実施した標記の国際比較調査の結果を取りまとめたので報告する。

調査からみる日本の高校生の主な特徴

※ () 内は調査報告書の掲載ページ

◆趣味の情報収集のために SNS を利用する者は8割を超えている

4か国とも SNS を「利用している」と回答した割合が9割以上であり、特に日米韓では96%を超えている。(p.9～)

日本の高校生は、利用の目的について「ゲームや音楽などの娯楽」(86.2%)、「趣味や興味のある話題に関する情報の収集」(82.4%)、「リアルな友達や知り合いとのコミュニケーション」(76.7%)、「家族との連絡」(75.8%)と回答した割合が高く、いずれも米中韓に比べて最も高くなっている。また、「推し活」の割合が36.7%で、米中韓より13ポイント以上高い。(p.12～)

◆1つの SNS で複数のアカウントを使い分ける経験があった者は5割を超えている

日本の高校生は、「1つの SNS に複数のアカウントを使い分けること」を「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合が5割を超え、4か国中最も高い。一方、SNS を使って「オンラインゲームをすること」(54.3%)「投稿を誰でも閲覧可能な範囲に公開すること」(25.3%)「投げ銭をすること」(3.6%)を「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合は4か国の中で最も低い。(p.14～)

◆リアルの友人とのコミュニケーションを重視

日本の高校生は、SNS を通じて知り合った人が「いる」と回答した割合が49.2%で、その人と実際に会ったことが「ある」と回答した割合が43.3%となっている。(p.18～)

また、日本の高校生は、「リアルの友人よりも SNS で知り合った人のほうが気持ちを伝えやすい」(18.5%)「友達と直接話すより、SNS を通じたほうが気持ちが伝えやすい」(26.7%)と回答した(「そうだ」と「まあそうだ」の合計)割合が米・中・韓に比べて低い。(p.20～)

◆SNS の利用によって、「趣味や興味のあること」が増えたと回答した割合が9割弱

日本の高校生は、SNS を利用することで、「趣味や興味のあること」(88.8%)「お金を使うこと」(52.0%)が「増えた」(「非常に」+「すこし」、以下同様)と回答した割合は4か国中最も高く、「社会への関心」が「高くなった」と回答した割合は55.9%と、中国に次いで高い。一方、「学習に対する意欲」(25.8%)「時間を管理する能力」(20.2%)が「高くなった」と回答した割合は、4か国中最も低い。(p.24～)

◆SNS による被害経験は米中韓より少ない

日本の高校生は、SNS を利用していて、「個人情報漏えいされたこと」「架空請求をされたこと」「アカウントの乗っ取りをされたこと」が「ある」と回答した割合はいずれも9%未満で、米中韓に比べて最も低くなっている。(p.35～)

また、SNS 上で悪口や嫌がらせを受けることが「よくある」「時々ある」と回答した割合は、日本が4.3%で、米国の30.4%、中国の11.8%、韓国の10.1%に比べて最も低い。(p.36～)

・考察(要旨)

国際比較から見た各国の SNS 関連問題と対応の特徴

筑波大学人間系心理学域准教授 藤 桂

本調査において収集された日本・米国・中国・韓国の高校生における SNS 利用の動向を踏まえつつ、各国でどのような問題が顕著であるかを比較した。また、SNS 上でのトラブルや誹謗中傷に巻き込まれた際の対応についても、国ごとに特徴を検討した。

米国では SNS を介したコミュニケーションや出会いにも積極的であるものの、誹謗中傷・無断投稿などの被害が他国よりも発生しやすいことが示された。一方中国ではトラブル発生頻度は比較的少なかったが、利用者自身が長期的なスパンで生じる問題に対し不安を感じながら機器を利用していることがわかった。また韓国では、利用開始年齢が他国より早く、家庭でも学校でも自由に機器を利用できているが、孤独・怒り・集中困難・落ち込みという面での心理的影響を受けやすいことも示された。

そして日本では、トラブルおよび誹謗中傷の件数が他国と比して低いものの、被害時には「無視する」方向での対処が取られやすく、事態のエスカレート危険性が伴いやすいことが示唆された。

SNS の利用は百害あって一利なし？

SNS の利用目的と SNS 依存、学習意欲の変化の関連

千葉工業大学先進工学部教育センター准教授 遠藤 伸太郎

4か国における SNS の利用目的と SNS 依存、学習意欲の変化の関連について分析を実施した。分析の結果、SNS 依存は、国に関係なく多くの高校生が抱えている問題であることが示唆された。また国による違いは多少あるものの、「ストレス解消」のような逃避、「直接会ったことがない(ネット上の)友達とのコミュニケーション」が SNS 依存と正の関連を有しており、今後注意する必要があると考えられた。加えて、「勉強に関する情報の収集」「生活や暮らしに関する情報の収集」が、学習意欲の変化(向上)と正の関連を有しており、SNS の利用にはポジティブな側面も存在し得ることが明らかとなった。

以上の結果から、SNS の依存を低減しつつ学習意欲を高めていくアプローチとして、今後は様々な体験活動との関連などを検討し、より効果的な SNS の利用を明らかにする必要がある。

SNS 上の経験とさまざまな適応指標との関連

—生活・運動習慣と対人関係、自己特性に注目して—

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター研究員 矢野 康介

本稿では、SNS 上の経験内容に注目し、生活・運動習慣、対人関係、自己特性といった適応に関する指標との関連を検討した。分析の結果、いずれの経験内容も各指標と概ねネガティブな関連を示した一方で、いくつかの経験は自己特性とポジティブな関連を有していた。例えば、オンラインゲームをすることは、「ストレスを感じやすい」に対する「思う」の割合の小ささと関連を示した。また、投稿を誰でも閲覧可能な範囲に公開すること、投げ銭をすることは、「将来に対し、はっきりした目標をもっている」に対する「思う」の割合の大きさと関連し、1つの SNS に複数のアカウントを使い分けることは、「自分には友達がたくさんいる(インターネット上のみの友達を除く)」や「自分のことは自分で決められる」に対する「思う」の割合の大きさと関連していた。

調査の概要

1 調査の目的

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）が普及した今日の高校生の子 SNS の利用状況とその影響や意識を把握する。さらに、SNS の利用傾向と自己特性、生活習慣や運動などとの関係を分析する。また、米国、中国、韓国でも同時に調査を実施し、諸外国と比較することで、日本の高校生の特徴や課題を考察する。これによって、青少年の健全な育成に関わる基礎資料を提供する。

2 調査方法等

調査時期、調査対象などは次のとおりである。

	日本	米国	中国	韓国
調査機関	国立青少年教育振興機構	一般財団法人日本児童教育振興財団(委託)	中国青少年研究センター	ソウル YMCA、韓国多文化青少年協会
調査時期	2023年9月～2024年1月	2023年9月～12月	2023年9月～11月	2023年9月～12月
学校数	35	10	32	34
調査地域	28	9	8	6
調査方法	集団質問紙法または学校を通しての WEB 調査	学校を通しての WEB 調査	学校を通しての WEB 調査	集団質問紙法
有効回答者数(人)	4356	1512	7750	1508

3 調査対象者の基本属性

(%)

		日本	米国	中国	韓国
性別	男	48.6	46.0	50.5	49.5
	女	48.7	50.6	49.5	50.5
	どちらとも言えない	0.8	1.7	-	-
	答えたくない	1.7	1.7	-	-
	無回答	0.2	0.0	0.0	0.0
学年	高1	33.6	36.8	49.8	43.6
	高2	34.8	35.4	27.1	33.4
	高3	31.2	27.8	23.1	23.0
	無回答	0.4	0.0	0.0	0.0
実数(人)		4356	1512	7750	1508

4 調査結果からみる日本の高校生の特徴

1) SNS の利用状況

① 利用率と利用時間 (p. 9～)

4か国とも SNS を「利用している」と回答した割合が9割以上であり、特に日米韓では96%を超えている。

平日の1日あたりの利用時間について、日本は、「1～2時間未満」と回答した割合が26.7%で最も高く、次いで「2～3時間未満」(25.3%)、「3～4時間未満」(17.3%)の順となっている。これに対し、米国は「5時間以上」と回答した割合が21.8%と4か国の中で最も高く、中国は「30分未満」が35.6%と、日米韓の5%未満と比べて著しく高い。

休日の1日あたりの利用時間について、日本は「5時間以上」と回答した割合が27.2%と最も高く、平日より20ポイント弱増え、4か国の中でも米国の29.6%に次いで高い。「4～5時間未満」の割合が16.8%で、平日より10ポイント弱増えている。

②初めて利用した時期 (p. 11～)

SNS を利用し始めた時期について、日本の高校生は、「中学1～3年」と回答した割合が49.6%と最も高く、次いで「小学4～6年」28.5%、「高校生になってから」11.7%の順となっている。「高校生になってから」の割合は4か国の中で最も高い。これに対し、韓国は、「小学入学前」「小学1～3年」と回答した割合が25.4%で、利用開始年齢が4か国の中で最も早い。

③ 利用の目的 (p. 12～)

日本の高校生が SNS を利用する主な目的は、「ゲームや音楽などの娯楽」(86.2%)「趣味や興味のある話題に関する情報の収集」(82.4%)「リアルな友達や知り合いとのコミュニケーション」(76.7%)、「家族との連絡」(75.8%)の順となっており、いずれも75%以上と、米中韓に比べて最も高くなっている。また、「勉強に関する情報の収集」(46.1%)、「推し活」(36.7%)も日本が4か国の中で最も高くなっている。

④各経験 (p. 14～)

日本の高校生は、「1つの SNS に複数のアカウントを使い分けること」を「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合が5割を超え、4か国中最も高い。一方、SNS を使って「オンラインゲームをすること」(54.3%)「投稿を誰でも閲覧可能な範囲に公開すること」(25.3%)「投げ銭をすること」(3.6%)を「よくしている」「ときどきしている」と回答した割合は4か国の中で最も低い。

2) SNS の利用と対人関係

①知り合った人の有無 (p. 18～)

日本の高校生は、SNS を通じて知り合った人が「いる」と回答した割合が49.2%で、その人と実際に会ったことが「ある」と回答した割合が43.3%となっており、いずれも米国より低くなっている。

② 友達との関わり方 (p. 20～)

日本の高校生は、「リアルな友人よりも SNS で知り合った人のほうが気持ちを伝えやすい」(18.5%)「友達と直接話すより、SNS を通じたほうが気持ちが伝えやすい」(26.7%)と回答した(「そうだ」と「まあそうだ」の合計)割合がいずれも米中韓に比べて最も低い。

③対人関係の変化 (p. 21～)

日本の高校生は、友人や親(保護者)、きょうだい、先生との関係が SNS を利用することで、「変わらない」と回答した割合が4か国の中で最も高くなっている。「少し悪くなった」「非常に悪くなった」と回答した割合は、いずれも4か国の中で最も低くなっている。

3) SNS の利用による影響

① 日常生活などへの影響 (p. 24～)

日本の高校生は、SNS を利用することで、「趣味や興味のあること」(88.8%)「お金を使うこと」(52.0%)が「非常に増えた」「すこし増えた」と回答した割合は4か国の中で最も高く、「社会への関心」が「非常に高くなった」「すこし高くなった」と回答した割合は55.9%と、中国に次いで高い。一方、「学習に対する意欲」(25.8%)「時間を管理する能力」(20.2%)「運動量」(18.0%)「自分を表現すること」(37.4%)が「非常に増えた(高くなった)」「少し増えた(高くなった)」と回答した割合は、4か国の中で最も低くなっている。

②精神状態 (p. 28～)

日本の高校生は、SNS の利用により、「寂しくなる」「イライラする」ことが「よくある」「ときどきある」と回答した割合はいずれも約25%で、4か国の中で最も低くなっている。「落ち込む」「眠れない」「他人に嫉妬する」ことが「よくある」「ときどきある」と回答した割合はいずれも約3割となっており、「ものごとに集中できない」ことが「よくある」「ときどきある」と回答した割合は4割強となっている。

③不安や心配 (p. 30～)

日本の高校生は、SNS の利用による不安や心配として、「勉強への影響」と回答した割合が55.5%とほかの項目より高く、4か国の中でも中国に次いで高い。また、「ネット依存」と回答した割合が48.8%で、4か国中最も高くなっている。「個人情報への漏えい」「詐欺被害」「体の健康や発達への影響」「犯罪・有害情報に触れてしまうこと」の割合はいずれも2割台となっており、「お金の使いすぎ」「気分の変動」「悪口や嫌がらせ、いじめを受けること」の割合はいずれも1割台となっている。

④依存傾向 (p. 31～)

日本の高校生は、この1年間において、「もっと多くの時間を SNS に費やしたいと考えたこと」(50.2%)「SNS の利用を禁止されてイライラしたこと」(31.3%)「SNS が原因で、趣味や余暇活動、運動の優先順位が下がったこと」(36.1%)「授業中、SNS をみること」(11.8%)が「ある」「いつもある」+「よくある」+「ときどきある」、以下同様)と回答した割合はいずれも4か国中最も低くなっている。また、「SNS で起こった出来事について、いろいろと考えてしまうこと」

(51.2%)「不安やストレスを軽減するために SNS を使ったこと」(63.7%)「SNS の利用頻度を減らそうと思ったが失敗したこと」(54.3%)が「ある」と回答した割合は米韓より低い。一方、上記の7項目で「ない」と回答した割合は、日本がいずれも4か国の中で最も高くなっている。

4) SNS による被害経験や規範意識

①被害経験 (p. 35～)

日本の高校生は、SNS を利用していて、「個人情報漏えいされたこと」「架空請求をされたこと」「アカウントの乗っ取りをされたこと」が「ある」と回答した割合はいずれも9%未満で、米中韓に比べて最も低くなっている。「自分の写真が無断投稿されたこと」(12.2%)「自分についてのうわさ話が拡散されたこと」(7.6%)が「ある」と回答した割合は米韓より低い。

また、SNS 上で悪口や嫌がらせを受けることが「よくある」「時々ある」と回答した割合は、日本が4.3%で、米国の30.4%、中国の11.8%、韓国の10.1%に比べて最も低い。

②規範意識 (p. 38～)

日本の高校生は、「他人になりすまして情報を発信する」ことは「何があってもダメ」と回答した割合が9割強で、米中韓の8割台に比べて最も高い。また、「他人のアカウントを乗っ取りする」「悪口や嫌がらせのメッセージやコメントを送ったり、書き込みをする」「他人の個人情報を無断に公開する」「他人の写真を無断投稿する」「他人のうわさ話を拡散する」ことは「その人の自由」と回答した割合が1.6%～3.4%で、いずれも4か国の中で最も低くなっている。

③ 情報リテラシー (p. 40～)

日本の高校生は、「SNS 上では、自分の言いたいことを何でも言ってよいと思う」と回答した(「そうだ」と「まあそうだ」の合計、以下同様)割合が4.9%で、米中韓より13ポイント以上低くなっている。「SNS でもリアルでも自分の発言や行動が変わらない」と回答した割合は4か国の中で最も高く、7割を超えている。また、「SNS で見た情報が正しいかどうかを確認する」を回答した割合が8割強と、中国と並んでおり、米韓よりも高い。

5) SNS 利用についての家庭や学校の対応

① 家庭の対応 (p. 42～)

日本の高校生は、インターネットの利用について、親(保護者)が「利用時間」や「利用金額」を決めていると回答した割合が約12%、「内容をチェックする」と回答した割合が5%未満にとどまり、いずれも4か国中最も低くなっている。一方で、「アクセス可能なサイトを制限する」と回答した割合が20.9%で、4か国の中で最も高くなっている。

② 学校の対応 (p. 44～)

日本の高校生は、学校で SNS の利用について、「プライバシーと個人情報に関する知識」「安全意識をもつこと(危険を予測し、被害を予防する)」「正しい情報を収集・判断する方法」「適切にコミュニケーションをとるためのマナーやルール、言葉づかいなど」を学んだことが「ある」と回答した割合は、いずれも約9割となっており、「他人からの中傷誹謗やトラブルに対する対処法」「セキュリティに関する知識」「依存防止」を学んだことが「ある」と回答した割合はいずれも約

8割となっている。

SNSの利用に関する学校での学習で、自分にとって重要なものとして「プライバシーと個人情報に関する知識」と回答した割合が4か国とも最上位となっている。そのほかに、日本では「依存防止」「他人からの中傷誹謗やトラブルに対する対処法」と回答した割合がそれぞれ38.1%と35.2%となっており、4か国の中で最も高い。

6) 自己特性や精神的な健康状態、生活習慣

① 自分自身について (p. 48～)

日本の高校生は、「いまの自分が好きだ」(62.5%)「将来に対し、はっきりした目標をもっている」(53.2%)と回答した(「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計、以下同様)割合が4か国中最も低くなっている。反対に、「自分はダメな人間だと思う」と回答した割合が57.2%で、米中韓の3割強に比べて著しく高い。「他人の意見に影響されやすい」と回答した割合が65.2%と、米中韓の5割強を約12ポイント上回っている。また、「人から褒められることを望んでいる」(81.4%)「ストレスを感じやすい」(68.1%)と回答した割合も4か国の中で最も高くなっている。

② 精神的な健康状態 (p. 49～)

最近2週間の精神的な健康状態について、日本の高校生は、「明るく、楽しい気分で過ごした」「落ち着いた、リラックスした気分で過ごした」と回答した割合(「いつもそうだった」と「そういう時が多かった」の合計、以下同様)がいずれも73%以上で、4か国の中で最も高くなっている。「意欲的で、活動的に過ごした」「日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった」と回答した割合はいずれも64%を超えた。

③ 運動や生活習慣など (p. 51～)

日本の高校生は、「就寝時間が遅くなること」が「よくある」と回答した割合は51.9%で、米中韓に比べて最も高い。一方、「朝食を食べないこと」「食事の時間が不規則であること」が「よくある」「たまにある」と回答した割合は4か国中最も低くなっている。

また、日本の高校生は、体育の授業以外で、運動を「ほとんど毎日している」と回答した割合が35.4%で、米中韓に比べて最も高くなっている。一方、「ほとんどしていない」(36.8%)と回答した割合も、4か国の中で最も高くなっている。

【問い合わせ先】

国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL : 03-6407-7613

Email : kenkyu-soumu@niye.go.jp

「体験の風をおこそう」運動